

18 菖蒲沢自然環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 菖蒲沢周辺一帯（八郷町）
- (2) 指 定 昭和53年9月1日（茨城県告示第1065号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、八郷町柿岡の南々西約5kmに位置し、小桜川の谷に面する丘陵山麓にある。集落の裏山にあたり、南面する傾斜地で、谷津田をはさみ、南側の丘陵と相対している。

シラカシを主としてスダジイ、タブノキ、ツバキ等の常緑広葉樹林に、スギ、アカマツを混じえた屋敷林であるが、本県では4ヵ所しかないヒメハルゼミの発生地の一つであり、良好な自然環境を形成している。

このため、本地域は、茨城県自然環境保全条例第3条第1項第5号の「植物の自生地、野生動物の生息地」に該当する。

(2) 保全すべき自然環境の特質

ア 植 生

シラカシを主とし、スダジイ、タブノキ、ツバキなど照葉樹林にスギ、アカマツを混じえ、さらに一部はモウソウチク林となり、屋敷林となっている。その上部はほとんどがアカマツ林で、一部にはコナラ、クヌギが帯状をなしている。いずれも、ごく一部を除き林床には、ヤマウコギ、ツバキ、アカメガシワ、ゴンズイ、アワブキ、ガマズミ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、アオキ、コゴメウツギ、ヒサカキ等の低木や、コウヤボウキ、ホウチャクソウ、クサイチゴ、タチシオデ、キツタ、マンリョウ、テイカカズラ、ヤブコウジ、オオイタチシダ、ゼンマイ、ベニシ

ダ等の草本がよく茂り、せまい範囲ではあるが、種類の豊かな植生である。

イ 野生動物

全般的に、暖帯林的な動物相を示している。

なかでも、常緑広葉樹林に生息するヒメハルゼミは分布の北限に近い種である。

本種はシイ、カシなどの暖帯林に生息し、しかもその発生地はきわめて限られている。

本県では、本地域を含めて4ヵ所の発生地しかない。発生数から見ると国指定の天然記念物となっている笠間市片庭の発生地よりも密度が濃い。

セミとしては、本種のほかには、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシ、ミンミンゼミの5種類が発生している。

林床にはジョロウグモ、ヨツデゴミグモ、オオシロガネグモなどが生育し、朽木上にはキマワリ、イシノミ、オオゴキブリなどが見られ、地表にはマダラカマドウマ、メクラグモの一種、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル等が見られる。

チョウでは暖帯林に分布の中心をおくモンキアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハなどのアゲハチョウ類が目立ち、なかでもモンキアゲハは暖地性チョウの代表種である。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

地域全域を普通地区とし、そこに生存する動植物を含む自然環境を維持する。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設などを必要に応じて設ける。

(5) 地区の指定に関する計画

本地域の区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	区 域	総 面 積	土地所有別面積	摘 要
菖蒲沢自然環境 保全地域普通地区	新治郡八郷 町 菖 蒲 沢	新治郡八郷町菖 蒲 沢 の 一 部	ヘクタール 2.44	ヘクタール 民有地 2.44	スダジイ、タブノキなどの常緑樹とヒメハルゼミ

総 括 表

区 分	特 別 地 区									普 通 地 区			合 計		
	野生動植物保護地区			そ の 他 の 区 区			小 計			国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地
所 有 別	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地						
所 有 別 面 積 (ヘクタール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.44	0	0	2.44
地 区 別 面 積 (ヘクタール)	0			0			0			2.44			2.44		
地 区 別 (パーセント)	(0)			(0)			(0)			(100)			(100)		

(面積は図上測定による概算値である。)

菖蒲沢自然環境保全地域区域図

$$S = \frac{1}{5000}$$

